

学習塾・予備校・私立学校こそ「両利き経営」に挑戦を

—「深化」と「探索」を!!—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：「両利き経営」とは何ですか

A：両腕を利き腕にすること、つまり「今までの仕事」は徹底的に磨き込み「深化」させると同時並行して、「これからの仕事」は徹底的に調査・研究した上で、失敗を恐れず果敢に挑戦「探索」に励み、事業として軌道に乗せることです。

Q：「両利き経営」の代表的な企業はどこですか

A：(1)日本の代表は「AGC(もと旭硝子)」
(2)世界の代表は「アマゾン」「IBM」です

Q：例えば、開倫塾ならどう「両利き経営」をするのですか

A：(1)今までの仕事は徹底的に磨き込み深化させる
(2)学習塾部門は今までの小中高のセミナー指導、個別指導の教育内容をすべて見直す
(3)ブロックごとにターゲット校合格者数30名以上を目指す
(4)校舎ごとに地域人材育成校合格者30名以上を目指す

Q：開倫塾は新規事業としてどのような分野を探索するのですか

A：(1)「Eスタジオ」に全校舎で挑戦
(2)「EST」100%受講に挑戦
(3)「bby(ブロードバンド予備校)」高校生100%受講に挑戦
(4)「開倫塾日本語教室」に全校舎で挑戦
(5)「通信制高校慶風高校サポート校」に全校舎で挑戦
*今年の秋から3年かけて挑戦します

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか

A：(1)日本では世界最速で少子高齢化が進み、昨年は1年間の出生者数が80万人台となりました。
(2)開倫塾はもとより、全国の学習塾・予備校・私立学校のすべては、この対象人口減少という超難題に直面。生徒募集が極めて困難となっています。
(3)ではどうしたらよいか。既存事業を徹底的に磨き込み「深化」させるのと同様並行して、需要が激減することが明らかであるなら新しい需要はどこにあるか、新しい事業分野を目を

皿のようにして「探索」し、失敗を恐れず挑戦、事業化して軌道に乗せる以外ありません。

Q：「両利き経営」に挑戦する上で、参考になるテキストは何ですか

A：3冊あります

- (1)1冊目は、チャールズ・A・オライリー、マイケル・L・タッシュマン著「両利きの経営—『二兎を追う』戦略が未来を切り拓く」東洋経済新聞社 2019年2月28日刊です。2020年度ビジネス書大賞特別賞(ビジネスリーダー部門)を受賞し、現在までに11万部も売れたベストセラーです。
- (2)2冊目は、加藤雅則、チャールズ・A・オライリー、ウリケ・シェーデ著「両利きの組織をつくる—大企業病を打破する『攻めと守りの経営』」英治出版 2020年3月5日刊です。「AGC、変革への挑戦」は参考になります。
- (3)以上2冊を、入山章栄著「世界標準の経営理論」ダイヤモンド社 2019年12月11日刊を参考書として読み込むことをおすすめします。

*この3冊をテキストにすれば、「両利き経営」は十分に理解できます。あとは実行するだけです。日本だけでなく世界のすべての国のすべての企業が、2年半にもなるコロナ禍と、2月24日から始まったロシアによるウクライナ侵攻、新冷戦によってもたらされた未曾有の経済危機に直面しています。知恵を出し合い、力を合わせて乗り越えましょう。がんばりましょう!!

Q：最後に一言どうぞ

A：「両利き経営」のテキスト3冊の他に、今月も僭越ながら、先生方が読めば参考になる本をご紹介します。

- (1)1冊目は、ロシア・中東の専門家で外交評論家の河東哲夫著「ロシアの興亡、プーチン帝国は崩壊する」MdN新書 2022年6月11日刊です。同著「日本がウクライナになる日」CCCメディアハウス 2022年4月27日刊の続編です。中国問題の専門家遠藤誉著「ウクライナ戦争における中国の対ロシア戦略 世界はどう変わるのか」PHP新書 2022年4月28日刊と一緒に読むと、より深い理解が得られます。
- (2)2冊目は、豊後国・竹田藩を舞台にした本格的時代劇、赤神諒の最新作「はぐれ鴉(がらす)」集英社 2022年7月10日刊です。少しがんばって一気に最後まで読み終えてから、2回、3回とじっくり再読すると1ページ、1ページ、霧が晴れたように本当の意味が浮かび上がってきます。練りに練った作品です。2回目以降は、高祖敏明他編「潜伏キリシタン図譜」かまくら春秋社 2020年12月25日刊を参照しながらゆっくり読むと興味が尽きません。どちらも素晴らしい作品です。
- (3)3冊目は、フロイト著「日常生活の精神病理」岩波文庫 2022年6月15日刊です。「固有名詞・外国語・名前と文言の度忘れ」「言い違い・読み違い・書き違い」「印象や企図の度忘れ」「取りそこない」「勘違い」など日常生活でだれもが経験することがらを、フロイトがどう分析するか。興味が尽きません。
- (4)4冊目は、村井章介著「北条時宗と安達泰盛 異国合戦と鎌倉政治史」講談社学術文庫 2022年6月7日刊です。NHK大河ドラマの「鎌倉殿の13人」で鎌倉時代に興味を持った先生方

は、是非<ビギナーズ・クラシックス・日本の古典>で「吾妻鏡」2021年11月25日刊を、TV番組の進行に合わせてお読みになることをおすすめします。「吾妻鏡」にはあまり触れられていない「北条時宗」は是非本書でどうぞ。

(5)5冊目は、「日蓮文集」岩波文庫 1968年10月16日刊です。鎌倉仏教についての理解が、本書で一段と深まります。日本仏教の源流ともいえる鎌倉仏教の奥深さを垣間見ることができます。

(6)6冊目は、小野紀明著「政治思想史と理論のあいだ『他者』をめぐる対話」岩波現代文庫 2022年6月15日刊です。高校で「公共」や「倫理」を担当する先生、大学入試で「論文」を担当する先生のテキストとして最適です。

(7)7冊目は、萩原朔太郎著「恋愛名歌集」岩波文庫 2022年6月15日刊です。「万葉集」「古今集」「六代歌集」「新古今集」から、詩人・萩原朔太郎がよりすぐった古典和歌集。中学生や高校生に国語を指導するすべての先生におすすめします。和歌は日本文化の源流です。

*コロナ禍はまだまだ続きそうです。家庭や学校・学習塾の自学自習スペースで過ごす時間が長くなると思いますので、この秋～冬もしっかり読書に励むよう塾生の皆様にお伝えください。この秋～冬は「読書教育」に励みましょう!!